

~~~~~

## 木へんの漢字

佐久間大輔

~~~~~

新しいグッズの企画として木へんの湯呑み・Tシャツが企画されました。実は随分前からお話はあったのですが、植物園案内などでは植物の名前を漢字でなくカタカナで、というお話をしてきた手前、少し躊躇したところでもあります。

多くの漢字は中国で生まれ、中国の植物を表すために作られています。中国と日本では似た植物が多いのですが、異なる植物も多くあります。日本の植物の名はいわば「訓読み」で、漢字に当てはめたものです。中国から持ち込まれた本草書を元に、日本の植物を当てはめていく中で、江戸期の本草学も進展していきました。しかし、多くの植物の名はそれ以前から慣用的に当てはめられ、長い歴史の中で定着しています。ただし、慣用的に決まっていることですので、同じ字でもいろんな読み方があったり、一つの植物の漢字表記が複数あったりするケースもたくさんあります。なので、植物の漢字の表記は何が正しい、とはっきり決められません。こうしたことから、生物学などでは異なる解釈が生じないように、種名をカナ書きするようになっていきます。

躊躇していたのはそんな理由からなのですが、そうした揺らぎ、歴史も含めて植物に興味を持っていただけなきっかけであるのは事実です。せっかくグッズになる機会ですので、少し私達なりの解説を加えてみることにしました。字の解釈には様々なものがあります。ここに上げたものが正解、というわけではなく、文字にその読みを与えることが正解とか不正解でもありません。そういう読みを与えている例があるという程度です。文末にいくつかの参考文献、サイトを上げました。もっと深く知りたい方はそちらをご覧ください。

松 マツ：マツ属の総称。後述のように針葉樹を意味するのに使われるケースもあります。

樅 モミ：モミ属の総称、あるいはモミを指します。万葉集にある「巨の木(おみのき)」はモミのこととする説もあります。ちなみにクリスマスツリーはモミではなく日本でも欧米でもドイツトウヒ (*Picea abies*) が用いられています。firの訳語に樹形の似

たモミがあてられたことが原因です(斎木2006)。

梅 ツガ：ツガは日本固有種。ツガ属はアジア、アメリカにもあり鉄杉属という中国名です。梅の字は梅の俗字だそうで日本でしか通用しません。トガとも呼ばれトガサワラとの混同される場合があります。

榎 ナギ：那木と表記されることもあります。この合字でしょう。中国名は竹柏。

榎 コウヤマキ：「真木」の名からの合字。真木は丸木の意だとか、雑木に対しての建築材の意だという意見もあります。イヌマキをさす場合もあり、他にも建築材としてのスギやヒノキなどを指す場合もあり、解釈の難しい字です

桧 ヒノキ：扁柏ともされますが、これは本来コノテガシワ。桧(檜)の字はビャクシンを指したといひます(植物ではなく、材の名という説もある)。

榿 サワラ：中国名は花柏、羅漢柏とかつて表記したように柏の字はコノテガシワのようにヒノキの仲間を指す文字でした。榿の字を当てるのはそれほど古くないのかもしれませんが。

杉 スギ：スギは長らく日本にしか生き残っていないとおもわれていました。台湾や中国には近代になってから中国にも亜種が生息していることがわかり、また日本のスギが各地に植栽されました。なので、この字が日本のスギを指すわけではありません。杉の字は中国ではコウヨウザンを指していました。樹形の似た日本のスギにも使ったというわけです。

榲 カヤ：同じカヤの名がつく植物にはまたは葉の似たイヌガヤもありますが、この字は本来カヤのみを指すのでしょう。

榿 シキミ：シキミ属の中国名は八角。近縁のトウシキミは八角、スパイスとして知られますが、日本のシキミは有毒ですのでご注意ください。中国名はそのものズバリ毒八角。榿の字は本来は密香樹という香木を指したようです。

朴 ホウ：中国では厚朴と書きます。朴一文字だとエノキ属になるので注意。

樟 クスノキ：クスノキは中国南部にも分布し、やはり中国でも樟の字を用いるようです。楠の字は中国では *Phoebe nanmu* という別のクスノキ科の植物

を指すようです。

楠 タブノキ：この文字も中国の植物図鑑にはでてきません。タブノキ自体は中国にも分布し、紅楠と表記されます。タブ属は潤楠となるようです。

椰 ヤシ：ココヤシ属が椰子属になります。日本語でのヤシ科は中国語では棕櫚科。椰子の文字で大きな果実のココヤシを想像するのは正解なようです。

櫚 シュロ：二文字で書く場合には棕櫚、中国語でも同じ表記です。ヤシ科Arecaceaeの代表属はピンロウ属*Areca*ですが、中国語でも檳榔科ではなく棕櫚科になっています。なんだかややこしいですが。

柞 イスノキ：この字がどういう経緯でイスノキを指すようになったのかわかりません。古い文書ではコナラ（ハハツ）を指す文字としてしばしば登場します。クヌギにも使われます。中国名は蚊母樹です。

桂 カツラ：桂の字は中国ではニッケイ（ホンニッケイ）を指すといひます。たしかに肉桂と書きますね。ニッケイとカツラ、良い香りがするくらいしか共通点が思い当たらないのですが、こうした入れ替わりは多々あります。

楪 ユズリハ：ユズリハもいろいろな文字に（まちがって）当てはめられてきた植物ですが、この字が正当なのかどうかわかりません。讓葉と書く例もあるようです。

槐 エンジュ：植物と一緒に漢字が中国から来た例であり、中国名で槐を使います。

梔 サイカチ：中国ではシナサイカチを指す文字。皂莢とも表記します。日本のサイカチの中国名は山皂莢となります。

梯 デイゴ：二文字では梯梧と表記されます。別名シトウは中国名の刺桐のよみをそのまま用いたもの。この字が当てられた根拠はわかりません。

桃 モモ、梅 ウメ、桜 サクラ：モモとウメは広く広がる栽培種で、日中で共通のものを指しています。サクラ属のうちサクラ亜属（近年独立の*Cerasus*属として扱う場合が多い）を櫻属と表現します。

榆 ニレ：中国では本来ノニレを指します。同属のもの総称として用いられている例。

櫟 ケヤキ：北村（1985）によれば、この文字は中国ではシナサワグルミ（カンボウフウ）を指すといひます。これをケヤキに当ててしまったのは大和本草や本草綱目啓蒙の間違いによるようです。ケヤキも光葉櫟と書くようですので、全く根拠がなかった



Osaka Museum of Natural History
Shinshu Park, Osaka JAPAN

図：木への漢字Tシャツデザイン。製作・著作：特定非営利活動法人 大阪自然史センター（無断転用・転載を禁ず）

わけでもないのでしょう。長居公園には中国本来の櫟と現代日本の櫟が並んでいる、というわけです。

榎 エノキ：エノキ属は中国ではなんと朴属です。榎の字は梓と同様キササゲをさすといひます。

榧 ムクノキ：この字は中国ではチシャノキを指すそうです（チシャノキの現在の中国名は厚穀樹）。ムクノキ属の中国名は糙葉樹属とやや難しい名。ムクドリは中国でも椋鳥と書くようですが、日本からの逆輸入かもしれません。

楮 コウゾ：コウゾはカジノキとヒメコウゾの雑種とされています。栽培や品種改良の歴史も古く、日本に製紙技術とともに渡ってきたときの楮が何を指しているのかははっきりとはわかりませんが、現代中国ではヒメコウゾを楮の字で表しています。

柘 ヤマグワ：この字も問題の多い字です。ツゲと読むのではないかという人もおおいとおもいます。万葉集でこの字はツミと読み、ヤマグワを意味するとされます。ヤマグワはクワ属の一種で、現代中国名でもクワの仲間桑と表記します。一方でツゲは柘植、黄楊の表記があり、中国では黄楊が標準のようです。何れにせよ解釈の難しい字の一つです。

椎 シイ：中国名ではシイ属のことを錐栗属と書きます。椎と錐は音が同じなのでしょう。なお、台湾や中国のシイ属にはどんぐりを包む殻斗のトゲが栗のように伸びているものもあります。それで錐栗属なのでしょう。

榲 ブナ：中国名ではブナ属を水青岡属または山毛櫟属と表記するようです。この漢字は全く違う意味を持つようですが、日本で当てはめたようです。

杼 どんぐり：ほとんど使うことのない文字ですが、予という字は伸びる、という意味があり、これに草冠を加えて茅(かや)、木へんを加えてドングリ、ということなのです。

榧 かし：常緑のナラ属(カシ亜属)を指す慣れ親しんだ文字ですが、この字は日本オリジナルの文字(国字)のようです。カシ類は中国では別属とされ、青冈属と表記するようです。

櫟 クヌギ：櫟の字は中国名でもクヌギを指しますが、橡の字もクヌギを指すことが有ります。日本での表記は栲、榲、榲、柞、功刀など多様です。中国や台湾では櫟の字は様々なナラ属にも使われ、クヌギだけを指すというよりもどんぐりの代表としての意味が強いです。

柏 カシワ：前出のように柏の字はカンワではなく、ヒノキの仲間を指しています。カシワは中国にも分布し、柞櫟と表記します。日本では榲の字も使いますが、これもどんぐりなど硬い殻に入った実という意味のようです。

榛 ハンノキ：困ったことに、日本ではハンノキとハシバミという二つの読みがあります。万葉集では真榛の二字でハンノキを意味するようです。中国ではハシバミ属を榛の字で表記しています。ハンノキには榲という字があるようです。

榲 カバノキ：中国でもカバノキ属を表します。

梓 アズサ：アズサはミズメの別名で、古来、弓の材料として知られていますが、この文字はもともと中国ではトウキササゲ(ノウゼンカズラ科)を指しています。なぜこの字を用いたのかは不明です。

榲 シデ：この字は中国にない、国字のようです。中国語ではシデ属を鵝耳栎属と表記します。

榲 マユミ：中国語では西南衛予らしいです。文字との関係はわかりません。

榲 マサキ：文字自身は榲の異体字として中国にもあるのですが、日本では通常木目の榲目(まさめ)の意味に使います。そこから転じたのでしょう。

柳 ヤナギ：この文字が指すのはシダレヤナギ。この植物も文字とともに中国からやってきました。ちなみに近代中国では楊の字が指すのはポプラ(*Populus*)の仲間です。

榲 ハゼノキ：これも文字と植物がセットでやってきた例です。蠟の原料です。

榲 カエデ：この字は本来、タイワンフウなどフウ

の仲間を指す字です。しかし現代の中国植物学ではカエデ属を楓属と表し、フウを楓香樹と書いているようです。日本からの逆輸入の影響でしょうか。

榲 トチノキ：橡の字もあります。榲の字は中国にはない、国字のようです。中国では七叶樹と書きます。橡の字は前出のようにどんぐりも意味します。

榲 ムクロジ：古名だそうです。無患子という書き方もありますが、こちらは中国でも通用します。無患子は木患子ととも書いたそうでこれがモクゲンジに転じたといえます。

榲 ダイダイ、柚 ユズ、橘 タチバナ、枳 カラタチ：これらの柑橘類は植物と文字がセットで入ってきたものでしょう。現代でも通用します。

榲 キハダ：この字の元の意味はクリなどのいぐさです。木偏百樹などで掲載されていますが比較的稀な用例です。同じ字をサンザシと読ませる場合もあるようです。キハダは槩の字を使うことの方が多いでしょう。これはこの樹皮を薬として用いる時の名(黄槩)で、中国名もこちらです。

榲 アオギリ：アオギリは梧桐子という漢薬として文字と植物がセットで持ち込まれました。中国でも梧桐です。

榲 ワタ：中国経由で伝来していますので、そのままワタを指す字です。種をとりのぞいたものが綿。

榲 ムクゲ：木槿とも書きます。ムクゲも文字とともに伝来したのでしょう。

榲 サカキ：この文字は国字、中国にはありません。中国名は紅淡比だそうです。

榲 ヒサカキ：中国でも榲木のようにです。

榲 モッコク：この用例はきわめてレアケースで普通には通用しません。木斛の表記が普通です。文字そのものがレアで、大漢和辞典にもほとんど記述がありませんが、白が自に変わった異体字が「木の名㊦モッコク㊧ナンキンハゼ」を意味するとありました。今回は活字のあるこちらの字を使いました。ローカルな用例も含めこうした文字と読みの多様性は驚くほどです。中国名は厚皮香。

榲 カキ：中国長江流域が原産とされ中国でも同じ漢字を使います。文字と植物がセットで伝来したのでしょう。

榲 ツバキ：椿の字は中国ではチャンチン(香椿)を指し、ツバキの仲間は山茶となります。中国にも椿の仲間はたくさんありますが、古くはツバキ(ヤ

ブツバキ)は日本と韓国にしか知られていませんでした。海石榴の表記がありますが、北村(1962)によれば、ツバキをザクロの花に似て海を超えてやってきたものと言う意味での表記だそうです。

梔 クチナシ：中国名でも梔子です。東アジアに広く分布します。

楨 ネズミモチ：イボタ属の中国名は女貞属で、トウネズミモチが女貞のようです。元は中国でも楨の字を用いたのでしょう。

柊 ヒイラギ：ヒイラギは台湾・中国に分布。柊の字を当てたのは日本でようですが、中国名は冬樹となっています。柊木としている例もあり、逆輸入かも知れません。

桐 キリ：本来は近縁のシナギリを指しますが、近縁種のキリに当てられました。

こうして書き連ねてみるといくつかのことに気がつきます。

- ・漢字の伝来は文化の伝来：柑橘類や薬、櫛や綿など植物とともに文字が渡ってきた例は数多く、日中で共通です。しかし数は少ないですが、日本の植物学の影響で逆輸入されたと思われる楓属や柊の例もあり、両国間の古くから現在に至るまでの結びつきも読み取れます。

- ・曖昧な針葉樹の文字：例えば松は基本的にはマツ属(*Pinus*)全体を指す文字ですが、蝦夷松(トウヒ属*Picea*)、唐松(カラマツ属*Larix*)、榎松(トドマツ、モミ属*Abies*)など多様な針葉樹にも使われています。「杉」も同様です。既に記したように、本来、コウヨウザンを意味していた文字を日本の固有種にあてはめたものです。この字は他にも油杉(*Keteleeria*)など、中国語でも中国や台湾の多様な針葉樹に使われています。また、近代以降の日本での用法ですが、レバノン杉やヒマラヤ杉(*Cedrus*)、南洋杉(*Araucaria*)など、円錐形の樹形の樹種にも広く使われます。柏の文字はヒノキやビャクシン類を指しますが、「松柏類」で針葉樹全体を指すように、多様な針葉樹も漢字としてはあまり細かくは分類していなかったようです。

- ・文学や宮廷に伝わったものははっきりするが、民生の植物は揺らぎがある。：識字率の高かった江戸時代の日本では、漢字を用いるのは宮廷や武士だけではなく、地域の村人も使っていました。薬や儀式

に使う植物の字が比較的定まっているのに対し、村人が使う樹木、特に雑木の名はクヌギを始めとして、多くのものがあてはめで、多くの異なる字の表記が共存します。実際の村文書レベルになると、各地域のローカルな用法もあって、ますます多様になります。学問的な検討もなく慣例で使われた、と考えれば無理もないことだと思います。

- ・漢字表記は一つの植物の意味にならず、やはり植物名はカナ書きにならざるを得ない。：英字の学名とともに、カナ書き(初期はかな書き)の和名を用いたのは、明治の植物学者や本草学者たちの先見の明だったのではないかと感じます。漢字にすることで意味や文化を感じることもできますが、混乱も深いなぁと改めて感じました。

いかがでしたでしょうか。漢字を通して東アジアの植物の多様性を感じて頂ければ幸いです。面白いグッズを作ってくれ、また文書を添削し、また情報を頂いた自然史センタースタッフの皆様、学芸員の皆様、(財)森林文化協会に感謝します。

以下の文献及びサイトを参考にしました

- 北村四郎 1962 ツバキの漢名。植物分類・地理 20(1), 49, 55
 北村四郎 1985 本草の植物—漢名と和名、学名との同定 保育社
 佐道 健 2005 木へんを読む 学芸出版
 嶋田英誠 編 跡見群芳譜 2006-2012 <http://www2.mmc.atomi.ac.jp/web01/Flower%20Information%20by%20Vps/Flower%20Album/index.htm>
 中川藤一 木偏百樹 <http://www.wood.co.jp/mk/>
 中川藤一 新・木偏百樹 <http://wood100.net/index.html>
 牧野富太郎 1961 牧野新日本植物図鑑 北隆館
 斎木健一 2006 針葉樹の話 歴博くらしの植物園だより133 Flora of China http://www.efloras.org/flora_page.aspx?flora_id=2
 諸橋轍次 1989 大漢和辞典 巻6. 大修館書店
 その他各種漢和辞典、字源など。

<さくま だいすけ：博物館学芸員>



新商品木へんTシャツと湯呑みのご案内

このページに解説された文字が詰まったTシャツ(税込2,160円)と湯呑み(1,080円)が新発売です。ミュージアムショップまたはネットショップ<http://omnh-shop.ocnk.net>でお求めください!